

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習A(2)	2026	後期	木5	学部間共通科目	中村 周史	2年次配当	2	UW-AI2-A08S

キャンパス・教室

多摩キャンパス・11506※2026/03/10更新

履修条件・関連科目等

担当教員のAI・データサイエンス演習Aの選考に合格した学生のみを履修対象とする。
並行して経済学や統計学、計量経済学、AI・データサイエンスツールⅢを履修することが望ましい。

授業で使用する言語

日本語

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

【テーマ】データサイエンスによるEBPMの実践

本演習では、データサイエンスを利用した「客観的根拠に基づいた意思決定、提案、政策形成」（EBPM：Evidence-based Policy Making）を実践するための教育と機会を提供することを主とする。

社会問題の解決には、①そもそもどこに問題があるのか、②その原因は何なのか、③それを実現可能な方法で取り除くには何が必要なのか、これらを順に解決する必要があり、そのためには経済学の知見とデータの適切な処理と分析、それを実行するためのプログラミングスキルが必要となる。演習Aでは、こうした教育の導入として経済学と計量経済学、データ分析の基礎固めを行う。くわえて、グループ毎にテーマを設定し、研究発表を行う。

科目目的

データ分析で経済・社会の問題を扱うため、経済学、計量経済学の基礎的な知識を獲得することを目的とする。また、グループワークを通じて、社会問題の発見からその解決策の立案までの経験を得ることも本科目の目的である。

到達目標

社会で起きている現実の事象と経済学的な知見を結びつけることができ、そこから分析に必要な命題や仮説を立て、適切な手法の分析選択ができるようになることを本演習の到達目標とする。

授業計画と内容

2年次後期（カッコ内は経済学（マクロ）の内容）

- 第 01 回 テーマ設定と研究計画発表
- 第 02 回 プロジェクト1・2による現状分析（マクロ経済学への誘い：国の富）
- 第 03 回 プロジェクト3・4による現状分析（マクロ経済学への誘い：総所得）
- 第 04 回 プロジェクト1・2による問題意識と先行研究サーベイ（経済成長）
- 第 05 回 プロジェクト3・4による問題意識と先行研究サーベイ（経済成長と貧富）
- 第 06 回 プロジェクト1・2によるデータ分析の結果と考察（雇用と失業）
- 第 07 回 プロジェクト3・4によるデータ分析の結果と考察（信用市場）
- 第 08 回 プロジェクト1・2によるデータ分析のリバイズ（金融システム）
- 第 09 回 プロジェクト3・4によるデータ分析のリバイズ（景気変動）
- 第 10 回 プロジェクト1・2による政策提言（反循環的マクロ経済政策）
- 第 11 回 プロジェクト3・4による政策提言（マクロ経済と国際貿易）
- 第 12 回 プロジェクト1・2による研究発表（開放経済のマクロ経済学）
- 第 13 回 プロジェクト3・4による研究発表
- 第 14 回 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと、授業終了後の課題提出

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

レジュメ作成時の事前学習と、研究発表に向けたグループワークを要する。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週 1 回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・毎週 2 回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準

種別	割合（％）	評価基準
----	-------	------

平常点	100	レジュメの報告内容、小課題の提出状況、質疑への参加状況、グループワークの成果物によって評価する。
-----	-----	--

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける,授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

Slackを使って、課題の提出、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）,反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）,ディスカッション、ディベート、グループワーク,プレゼンテーション,実習、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

その他

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

BYODにより各自の端末でデータ分析等を行なう。

実務経験のある教員による授業

いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

計量経済学テキスト
・鹿野 繁樹『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』日本評論社, 2015.

経済学テキスト
・ダロン・アセモグル, デヴィッド・レイブソン, ジョン・リスト『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』東洋経済新報社, 2019.

その他特記事項

通常の授業時間に加えて、週1コマのサブゼミを行います。

参考URL

コメント1

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。カリキュラムマップについては <https://www.chuo-u.ac.jp/gp/collaborate/curriculum/>をご確認ください。

コメント2

100分×14回の授業相当の動画学習や課題を行う予定

コメント3

コメント4

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習A(2)	2026	後期	金5	学部間共通科目	酒折 文武	2年次配当	2	UW-AI2-A08S

キャンパス・教室

後楽園キャンパス・6409※2026/03/10更新

履修条件・関連科目等

AI・データサイエンスと現代社会、AI・データサイエンスツールIIIおよびIVを学修していること、あるいは並行履修することが望ましい。数学、統計学、プログラミングに関する基礎知識は上記科目を含む他科目である程度学んでいることを想定するが、必要に応じて授業内で説明する。

授業で使用する言語

日本語

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

【テーマ】AIやデータサイエンスを用いた問題発見・解決の実践・実装

本演習ではいずれかのプロジェクトに参加して、グループでデータサイエンスとAIを活用した問題の発見・解決を目指す。適切な手法でデータを取得、分析し、結果からの意義ある考察を行うためには、データサイエンスやAIの考えかたや手法の理解、それを実行するためのツールを使いこなす技術、そしてデータに関する背景知識が不可欠である。演習では、座学や実習、知識の共有などを通してこれら3つの知識・技術を深めるとともに、プロジェクトのメンバーとして活動していく。1年目の演習Aはその礎を築く。

科目目的

スポーツをはじめとする様々な実社会の問題に対し、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決をおこなうための技術と方法への理解を深め、その実行と結果の解釈・フィードバックを行なうことができる力を身につけることが目的である。

到達目標

- データの基本的な処理・加工法、可視化や簡単な分析法を理解し、目的に応じた適切な処理・分析を選択し実行できる。
- データ分析や可視化を通して、課題を発見したり、その課題を解決する糸口を掴むことができる。

授業計画と内容

授業は全体へのレクチャー・情報共有とプロジェクトごとの活動からなる。

- 第1回 プロジェクトの目標設定、プロジェクト活動
- 第2回 Linuxサーバ入門、プロジェクト活動
- 第3回 スポーツにおけるデータサイエンスの実践例、プロジェクト活動
- 第4回 eスポーツにおけるデータサイエンスの実践例、プロジェクト活動
- 第5回 予測と回帰分析、プロジェクト活動
- 第6回 分類とロジスティック回帰分析、プロジェクト活動
- 第7回 プロジェクト活動
- 第8回 プロジェクト活動中間報告
- 第9回 機械学習の基礎、プロジェクト活動
- 第10回 教師あり学習、プロジェクト活動
- 第11回 教師なし学習、プロジェクト活動
- 第12回 深層学習入門、プロジェクト活動
- 第13回 プロジェクト活動のまとめ
- 第14回 後期の総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと,その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

プロジェクトごとの作業やプレゼン準備を行ない、授業に臨む。また、プログラミング、数学、統計学等に関する自習用教材を提供するので、必要に応じて学んで知識を深めておく。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準

種別	割合（％）	評価基準
平常点	100	授業への参加状況、プロジェクトでの作業状況、成果の内容などにより評価する。

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける,授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う,その他

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

mattermost を通じて行なう。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）,反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）,ディスカッション、ディベート、グループワーク,プレゼンテーション,実習、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

その他

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

BYODにより各自の端末でデータ分析等を行なう。

実務経験のある教員による授業

いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

基本的にはレジュメ等の配布資料を用いる。学修状況に応じてテキストや参考文献を指示する場合がある。

その他特記事項

参考URL

コメント1

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。カリキュラムマップについては <https://www.chuo-u.ac.jp/gp/collaborate/curriculum/>をご確認ください。

コメント2

100分×14回の授業相当の動画学習や課題を行う予定

コメント3

コメント4
